公表	事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスもあ			
○保護者評価実施期間	2025年9月10日	～	2025年10月5日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	20人	（回答者数）	16人
○従業者評価実施期間	2025年7月1日	～	2025年7月15日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7人	（回答者数）	7人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月30日			

○ 分析結果

・業務改善を進めるために、都度話し合い改善点を具体的に洗い出す必要がある。→前年度より継続

・スタッフの研修の機会を増やし、現代における療育を考えていかなければならない。

・保護者との面談により、要望を取り入れやすくはなったが、アセスメントにもとづき、今後も指導計画の作成や運営を実施していく。

・ケース記録の取り方を効率よく出来ないか？必要な情報を適宜確認し、最適な情報のシェア方法を考えていく。

・少人数や個別など特性に合わせた課題を考え、日々の療育に生かしていく。→前年度より継続

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	クッキングや体操教室・市内外施設への遠足(施設訪問)、事業所のお祭り(もあ縁日)など色々なイベント・行事があり、経験や思い出が増え、楽しく通所が出来ているとの声が多い。学校や家庭では体験が出来ない「特別な時間」を今後も子どもたちに共有していく。	子ども一人ひとりの得意不得意を考え、ワーク系の作業だけでなく体を動かす内容にも着目し、日々運営している。 最近は、ピアノ伴奏による「リズム運動」や専門スタッフによる「体操教室」を積極的に取り入れ、体幹を鍛えたり、出来ることが増えることに対する喜びを子どもたちが実感できるよう、意識している。	内容の充実化とマンネリ化を避けるため、専門家にアドバイスをいただきながら取り組んでいきたい。個々の特性に合った療育を目指す。
2	社外の研修会・講習会などへの参加は積極的に行っており、参加したスタッフからの研修会・講習会についての内容を報告したり、ミーティングなどで情報共有を行うなどをしている。	研修会や講習会に参加しやすい体制を整えており、時間帯に関係なく、スタッフが気軽に参加できるように声がけも行っている。	療育に対する専門的な勉強会に参加したり、そのような機会が増えるように事業所単位で企画するなど、さらに充実した取り組みを進めていく。
3	指導計画を作成する際に、必要な情報は適宜確認し、取り入れている。そうすることでスタッフ間の共通意識を高め、指導に活かしている。	特性やスタッフが気づいたことなどを自由に記入できるノートを子ども一人に対して1冊準備し、日々の様子からすぐに記載してもらうようにしている。また、ケース会議を月に複数回実施し、子どもたちの細かな変化に気付けるよう、また、その気付きの中から次の支援内容を検討する。	アセスメント確認や作成、支援計画の作成など、情報収集を行う際に、効率よく収集出来るようなシステムがあると、無駄な時間をかけずに作成できるのではないか？　現在はスタッフ間で確認を行っているが、手軽に入力できるような仕組みを構築するとよいと思われる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に拓かれた事業所とは言えない。地域との交流・交流機会のセッティングは極めて少ない。 今後は、交流機会を設けられるような創意工夫を地域住民の方に協力いただきながら、拓かれた施設を目指す。	地域参観日を実施。保護者や地域住民、学校の支援担当教諭に向けに子どもたちの様子を見ていただく期間を設けたところ、多くの方に来所いただくことができた。　このような機会を積極的に増やし、来所しやすい環境整備が必要である。	夏休み・冬休みなどの長期休業期間や土曜日の通所時など、比較的時間に余裕がある時に交流の場や時間を設けることも必要と考える。内容については、地域の方や近隣自治会・市社会教育課などと相談し、手軽に出来る内容で検討していく。
2	開所時間帯の問題…長期休業期間中の開所時間帯がもう少し早いと利用しやすいとの声があった。 利用したい時間帯と開所時間が合わず、利用出来ない場合があるとのこと。	スタッフの人数や人員配置など強化しなければならない。 通所時間帯のスタッフの人員確保ができれば、長期休業期間などの開所や、開所時間帯を長く出来る可能性がうまれる。	スタッフの人数が増える予定のため、今年度は休止した土曜日の開所について、次年度は再開する方向。保護者のニーズに近づけるよう、企業努力を行う。
3			